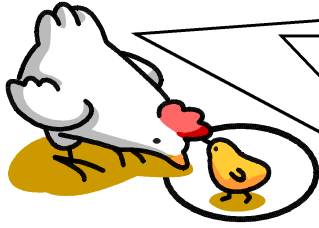


令和2年4月20日

八戸市立新井田小学校
同 父母と教師の会



啐啄 NO.729

☎ 25-5125
☎ 25-3150

令和2年度における学校目標について ～他者や集団との関係の中で、自分に自信をもち、 生き生きと活動できる子どもの育成～

校長 峯 明 紀

4月7日の入学式には、101名の新1年生の入学式の内容を短縮して実施しました。卒業式に引き続き、地域の来賓の皆様と一緒に入学を祝うことができなくなり大変残念に思っております。今年度は、教育目標を新たに「夢に向かい 考え 行動する子」と設定し、子ども一人一人が明確な夢（希望、目標）をもち、主体的に考え行動できる児童の育成を目指すこととしました。将来生きる力を身に付けた社会人としての基盤づくりをになつてまいりたいと思います。今後も、本校の教育活動に御支援・御協力をお願いいたします。



さて、今年度の学校目標は、表題のように「他者や集団との関係の中で、自分に自信をもち、生き生きと活動できる子どもの育成」です。昨年度は、キャリア教育で育てたい「資質、能力、態度及びそれらを支える心」の中から、重点施策を「自己有用感」「自己を見つめる力」「つながる力」に定め、低・中・高学年ごとに、達成した子どもの姿を目標として取り組むことで、キャリア教育の推進を図るとともに学校目標達成を目指しましたが、どの重点施策も学年が上がるにつれて肯定的な回答率が低くなっていく傾向がみられました。

そこで今年度は、昨年度の課題を踏まえ、一人一人の児童が「自分は価値ある存在」「自分は役に立つ行動をしている」「自分の行動や存在が認められている」と自覚でき、その結果として自信をもって生き生きと活動できるよう、「自己有用感」を高めることに絞って取り組みたいと考えています。そして、教育目標達成の基盤となる「学校に行くことが楽しい」と言える児童を増やすことで、さらなる活力ある学校を目指していきたいと思っております。そこで、学校目標具現化のための重点として、教育活動全体をとおして「自己有用感」を高める4つのポイントに取り組みます。

- (1) 子どもをよく見て、その子に応じてほめる。
- (2) 子どもの話をじっくり聴いたり、子どもに話しかけたりする。
- (3) 一人一人に活躍の場を与えて、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせる。
- (4) 子ども同士が認め合う場を設定するなど、人間関係づくりを支援する。



学校目標の達成状況を把握する方法として、「自己有用感」及び「学校目標」に関わる児童アンケートを3回実施し、肯定的に回答した児童の割合を比較していきます。最終的には、昨年度の児童アンケートで、「学校に行くことが楽しい」と肯定的に回答した児童の割合を上回ることを目指したいと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、前年度までに計画していた教育活動を大幅に見直し、修正・変更していかねばなりません。子どもたちが安心して学校に登校できるように努めてまいります。行事等の変更については、今後お便り等で事前にお知らせいたします。保護者の皆様の御理解・御協力をお願いいたします。



「啐啄」(そったく): 「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、
「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。